

2015年5月22～24日四日市東日本大震災支援の会 第26回派遣 宮城県東松島市 交流ボランティア & 福島県原発被害視察

(暫定版 Ver.1) 2015年1月7日
四日市東日本大震災支援の会 代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

東北の被災地では、仮設住宅での不自由な生活が続き、4回目の厳しい冬を迎えています。われわれが継続的に支援をしている宮城県東松島市では、災害公営住宅への入居など自立に向けた動きが始まり、仮設住宅には空室が目立つようになりました。しかし、引っ越しまで数年が予想される方もおり、まだまだ復興への道のりは長く続きます。また、第25回の活動で初めて交流会を開催した、津波と放射能汚染で全村避難中の福島県葛尾村での交流会も盛り込みました。東北の仮設住宅では、高齢者比率が高くなり、孤立などの問題が深刻で、まだまだ交流促進など心の支援が必要とされています。新入生の皆さん、ぜひ参加をしてください。

宮城県東松島市；宮城県石巻市の西、松島町の東に位置し、2011年の東日本大震災では、沿岸地域だけでなく、海岸線から数キロ内陸まで津波が押し寄せ、住宅地の65%が浸水し、たくさんの方が亡くなり、多くの家屋が全壊・流失の被害を受けました。

福島県葛尾村；福島県浜通りの山村で、原発事故の影響を受けて全村民が避難中です。まだ廃炉の見通しが立たず、除染も思うように進みません。まだ自宅に住むことができませんが、ふるさと葛尾村を取り戻すため、頑張っているらしいです。

*葛尾小学校・葛尾中学校の校歌を、昨年末に暁中学・高等学校合唱部が録音しました。

<活動>

■宮城県東松島市仮設住宅での交流ボランティア（お茶会&足浴）

■福島県葛尾村の仮設住宅(三春町にある)での交流ボランティア（お茶会&足浴）

★申込方法・参加費

申込：以下の情報・書類を学校で取りまとめます。

★氏名・フリガナ・性別・生年月日・郵便番号・住所・携帯番号・緊急連絡先

★保護者と参加者本人がサイン・捺印した**参加同意書を提出**してもらいます。

参加費

生徒・学生 13,000円（スタッフ(現地で5日以上活動を体験した支援の会会員)は7,000円)

一般社会人 25,000円

<費用の内訳>

・四日市大学ー宮城県の往復バス・現地での移動、23日の昼食、入浴

・ボランティア活動保険・旅行保険

★22日の夕食・23日朝食・夕食・24日朝食・昼食は各自負担です。

申込先・参加費支払先

★四日市大学は鬼頭まで、看護医療大学は小寺まで。

★問合せ先：鬼頭；携帯電話：090-4266-2348

メール：kito@yokkaichi-u.ac.jp

キャンセルに対する考え方

・支援の会は、極めて財政的にギリギリの運営をしています。突然のキャンセルがありますと、支援の会にとって大きな痛手となります。5月11日以降のキャンセルの場合、新たな参加者の募集は困難であり、食事・保険など節減が可能な部分の費用を除いた、生徒・学生 11,000円、一般社会人 23,000円のキャンセル料をお支払いいただきます。ご理解ください。



がんばろう、
日本。

<スケジュール概要>

★5月22日(金)

19:00 四日市看護医療大学4階、40B教室に集合

1. 参加者全員で直前ミーティング
2. 名札・ボランティア保険証書を配布します(活動中は必ず首にかけてください)

20:00 四日市大学出発(四日市大学バス停裏の職員駐車場)

1. 最初の休憩(刈谷)では夕食の購入、2回目の休憩で歯磨きなど寝る準備をしてください
2. 就寝(完全消灯をします。全席フルリクライニング)

★5月23日(土)

7:00頃;春日サービスエリアで朝食(各自負担)と洗顔(30分程度の休憩)

1. 高校生は制服に着替えてください。
2. 東北の土産は、ここでしか購入できません。混乱しないよう、各自のカバンに入れてください。

8:00 東松島市大曲浜の視察(津波で壊滅的な被害を受けた大曲浜で被災体験を聴きます)

9:00 矢本運動公園仮設住宅集会所に到着、降車・荷物搬入・ミーティング

9:30 から準備と戸別訪問(11時半までには終了して集会所に戻る)

1. 戸別訪問チームは、高校生・大学生混成、手分けをして案内配布
2. 準備チームは、集会所内の配置を決めて準備開始

11:30 集会所にて昼食(弁当を支給します)

12:30 交流ボランティア(告知は13:00としますが、早めにスタートします)

16:00 片付け終了後 ⇒ 「ゆふと」にて入浴

- 入浴後は自由行動、夕食は各自でとること。食事できる場所は、マップを配布します。

19:00 語り部さんによる講話

21:00 仮設住宅集会所で宿泊

★5月24日(日)

3:30 起床 片付け・掃除

4:00 バス出発(車内で朝食) ⇒ 出発して30分のサービスエリアで休憩、洗面・トイレ

9:00 葛尾村仮設住宅(三春町)での交流会

12:00 終了 ⇒ 帰路に

21:00頃 四日市大学帰着 ⇒ 片付け ⇒ 解散

<持ち物(バス内では、座席には最小限の荷物だけを持ち込むこと)>

- ・筆記用具(活動中に記録をとる小さなメモ帳は必ず用意してください)
- ・健康保険証・常備薬・歯磨きセット
- ・お金(親戚やお友達などに、たくさん土産を買ってくることも、大きな経済的支援です)
- ・かさ・帽子・電池式携帯充電器
- ・エプロン(交流会では、全員が着用します)
- ・ボランティア活動保険証書(支援の会で加入し集合した時に配布します)
- ・マクラ・クッション・バスタオル・マスクなど(バス移動と集会所宿泊に利用)
- ・入浴用タオル、着替え、ビニール袋 ★往復のバスではトランクに入れる

<注意点、守るべきこと>

- ・被災者の気持ちに寄り添い、傷つけるような言動をしないこと
- ・積極的に被災者に対し、家族や友人、お姉さん、お兄さんのように笑顔で接しましょう
- ・家族を失ったり、家を流されたり、被災者が大変な経験をしていることを常に忘れないでください
- ・指示されたことだけでなく、自分で考えて行動しましょう
- ・名前や職業・住所を聞くことは、基本的にNGです。深い絆ができれば、交換もOKです。
- ・写真撮影は深い絆ができてからにしましょう
- ・活動中の写真や映像が、ホームページや報道で使われることがあります。了承ください。

<福島県三春町の平均空間放射線量>

活動場所となる仮設住宅が立地する三春町三春ダム近くでは、昨年秋以降の値は0.20~0.22 μ Sv/hで安定しています。今回の活動で、おおよそ1 μ Svの被ばくとなりますが、胸部X線集団検診の被ばく線量の50分の1程度、国際線の成田とニューヨーク往復と比べると200分の1程度です。

<高速バス運行体制>

本会の東北派遣では、費用よりも安全という考え方を徹底しており、運転手2名体制での運行、運転手の現地での十分な休息確保をしております。そのため、現地での活動で不便なことがあります。ご了承ください。今後も、さらに安全運行を徹底するよう、会としても努力を続けます。

* JTB総合提携店(株)第一観光(担当;黒田真史)を通じ、名阪近鉄のバスで宮城県を往復します。